2022 年 5 月 18 日

東京有明医療大学小山浩司先生を筆頭として、中里浩一先生、平沼憲治先生が参加している原著論文（Koyama K, Nakazato K, Kubo Y, Gushiken K, Hatakeda Y, Seo K, Nakase T, and Hiranuma K, Effects of Competition Level on the Prevalence and Incidence of Lumbar Disk Degeneration in Japanese Collegiate Gymnasts）が Orthopedic Journal of Sports Medicine 誌に受理されました。

スポーツ選手において腰痛をはじめとする腰部の疾患は高い頻度で発生します。特に重篤になれば競技続行の断念にもつながるため、腰痛発生を未然に防ぐことが重要です。腰痛発生の要因のひとつとして椎間板変性が知られています。

椎間板変性はスポーツ選手において好発します。多くの椎間板変性は背骨の骨盤に近い方（L4/L5、L5/S1）で発生します。ところが競技体操選手、とりわけ競技力の高い選手においては比較的高い位置（L1/L2）で発生することが知られています。本研究では競技体操選手において L1/L2 の位置で発生する椎間板変性と競技レベルの関係を検討しました。

本研究では大きく二つの検討を行いました。研究 1 では、298 名の競技体操選手を対象として、L1/L2 での椎間板変性発生と競技レベルの関係を横断的に検討しました。研究 2 では、51 名の大学競技体操選手を対象として、L1/L2 での椎間板変性発生と競技レベルの関係を 2 年間追跡することで縦断的に調査しました。

研究 1 において地区大会レベル、国内レベル、国際レベルの競技選手では L1/L2 レベルの椎間板変性の発生率がそれぞれ 44.2%、44.7%、52.8%であり、競技レベルが高いほど発生率が高値を示しました。さらに研究 2 においても競技レベルの高い選手における椎間板変性の発生リスクが 47.8 倍高値であることを見出しました。

これらの結果から、競技体操選手において特徴的な高位での椎間板変性の発生は競技レベルが強い影響を与えていることがわかりました。この結果から、特に競技レベルの高い体操競技選手において椎間板変性の発生には十分に留意し、腰痛発生を未然に防ぐことが重要であると結論しました。

文責　中里